



水道料金の使われ方

～水道事業会計の平成30年度上期財政公表～

損益計算書（平成30年4月1日から9月30日まで）

収益の部		費用の部	
営業収益	4億644万円	営業費用	3億4,005万円
給水収益	3億8,816万円	原水及び浄水費	6,378万円
受託工事収益	1,655万円	配水及び給水費	922万円
その他営業収益	173万円	受託工事費	802万円
営業外収益	1,602万円	業務費	255万円
受取利息及び配当金	0万円	総係費	301万円
長期前受金戻入	1,589万円	職員給与費	5,072万円
雑収益	13万円	減価償却費	1億7,846万円
		資産減耗費	2,429万円
		営業外費用	3,903万円
		支払利息及び 企業債取扱諸費	3,903万円
収益合計	4億2,246万円	特別損失	2万円
		過年度損益修正損	2万円
中間純利益	4,336万円	費用合計	3億7,910万円

財政状況

地方自治体が経営する企業として運営している水道事業では、経営成績や財政状況などを明らかにするための書類を作成しています。『損益計算書』は、一定期間に属する全ての収益とこれに対応す

る全ての費用を記載しており、純利益を確認することができます。収益は、営業収益4億644万円と営業外収益1千602万円の合計4億2千246万円となりました。また、費用については、営業費用3億4千5百万円と営業外費用3

千903万円、特別損失2万円の合計3億7千910万円となり、平成30年度上期の純利益は4千336万円となっています。

一方、『貸借対照表』は、保有する全ての資産と負債、資本を表示することで財政状況を確認することができます。

資産は、前年度同時期の80億3千984万円と比べ6千867万円増加しました。

負債は、前年度同時期の49億8千746万円と比べ3千376万円増加、資本は、前年度同時期の30億5千238万円と比べ、3千491万円の増加となっています。

※平成31年4月1日に行う水道料金の値上げについて、今号より、Q & Aで分かりやすくお知らせします。（24ページ）

胆振の輪

～被災地支援～

北海道で初めての最大震度7を観測した『平成30年北海道胆振東部地震』。『震度5弱』を記録した登別市においては、土砂災害や家屋の倒壊などの大きな被害はなかったものの、『震度6強』を観測した安平町では、大規模な土砂崩れのほか、水道管の破裂などにより最大3,593戸が断水となりました。

市は、1トンの給水タンクと加圧装置を積載したトラックとともに職員を派遣し、安平町の断水が復旧した9月29日までに計60回、安平町の避難所で給水支援を行いました。



▲安平町での給水活動

貸借対照表（平成30年9月30日現在）

資産の部		負債の部	
固定資産	74億7,184万円	固定負債	41億26万円
有形固定資産	74億7,165万円	企業債	40億9,854万円
無形固定資産	19万円	その他固定負債	172万円
流動資産	6億3,667万円	流動負債	2億3,645万円
現金預金	5億2,168万円	企業債	1億4,234万円
未収金	7,302万円	未払金	52万円
※貸倒引当金除く		前受金	52万円
貯蔵品	79万円	その他流動負債	9,307万円
前払金	2,568万円	繰延収益	6億8,451万円
その他流動資産	1,550万円	長期前受金	16億9,643万円
		収益化累計額	△10億1,192万円
		負債合計	50億2,122万円
		資本の部	
		資本金	24億2,114万円
		剰余金	6億6,615万円
		資本剰余金	2,042万円
		利益剰余金	6億4,573万円
		資本合計	30億8,729万円
資産合計	81億851万円	負債資本合計	81億851万円